

2023年度 日本地すべり学会賞受賞者紹介

【功労賞】 中村直登 氏（正会員）

●推薦理由：

中村直登氏は、2001年より日本地すべり学会事業計画部に所属し、20年以上にわたり部会の運営に貢献されてきました。

2002年に本会の学生会員が主導して実施した「日本地すべり学会若手シンポジウム―“これからのランドスライド研究にむけて”―」の開催にあたっては、中村氏が事業計画部から管理担当者として運営の助言を主体的に行い、同シンポジウムを成功に導く役割を担いました。シンポジウムでは計28件の発表があり、発表した当時の学生会員は今、学会活動を担う立場として活躍しています。また、毎年6月に定期的に開催されるシンポジウムの話題設定や研究発表会運営のための実務を担っていただきました。「大会実施要領」の作成や改定、「紙面講演集」から「CD講演集」への移行、「若手発表賞」の導入など、学会の行事スタイルを築き上げるのに多大な貢献をされました。

中村氏は2010年度まで副部長として部を牽引してこられ、副部長退任後も事業計画部の相談役として長きにわたって部の活動にご協力いただき、後進の指導をされました。さらに特筆すべきは、中村氏は、肩書だけの立場ではなく毎回の部会に常に出席し、研究発表大会の準備・運営での課題解決やシンポジウムテーマ選定などで、部内での議論が困窮する度に調整役を担っていただきました。加えて、本学会がInternational Consortium on Landslides (ICL)、(公社)地盤工学会ほかと共催し、2021年11月に京都で開催した5th World Landslide Forum (第5回斜面防災世界フォーラム)では、

ICL委員会に所属し、本学会が同フォーラムで初めて主催した電子プロシーディングセッション (50題の発表)で発表者推薦やプログラム作成と、新型コロナウイルス感染対策の具体案作成に携わり、現地参加で多大なご助力をいただき、事業計画部の活動で得た知見を活かすことで日本地すべり学会の発展に大きく貢献されました。

中村氏は2023年2月をもって事業計画部相談役を退任されましたが、これ迄の活動実績と成果は大きな学会運営の大きな資産となっています。

以上より中村氏の学会活動に対する貢献は、2023年度「功労賞」の受賞者として相応しいと判断し、ここに表彰委員会として推薦いたします。

● 略 歴 ●

1975年3月	東京農業大学林学科卒業
1976年10月	日本工営株式会社入社 (福岡支店配属)
1982年4月～2017年8月	同社支店転属 (仙台、関東、新潟、四国)
2008年4月	株式会社エル・コーエイ (出向)
2023年3月	日本工営株式会社退職

